

# 歯のレントゲン写真で骨密度測定

全国で約千二百万人の患者がいるといわれる骨粗鬆症で、姫路市の歯科開業医、高石佳知さん(五〇)が早期発見につながるソフト「簡易骨密度測定システム」を開発した。

歯科で撮影するレントゲン写真とパソコンがあれば、短時間、低成本で骨密度を測ることができ。高石さんは日本や欧米で特許を出願、申請中。六月一日からカナダ・トロントで開かれる「国際骨粗鬆症財団(IFO)世界会議」で発表する。

骨粗鬆症は、カルシウム不足などから骨の強度が低下し、骨折しやすい状態に

## 「骨粗鬆症」の早期発見期待

なる。自覚症状がないまま進行するため、患者の約20%しか治療を受けていないとのデータもある。

骨折後に症状に気付くケースが多く、寝たきりや認知症になるケースも後を絶

たないが、早期発見により薬で骨密度を上げることで、骨折を防ぐことは可能という。

今回開発したソフトでは、歯科で撮影したレントゲンをパソコンに取り込み、明るさを表す「輝度値」

### 姫路の歯科医システム開発

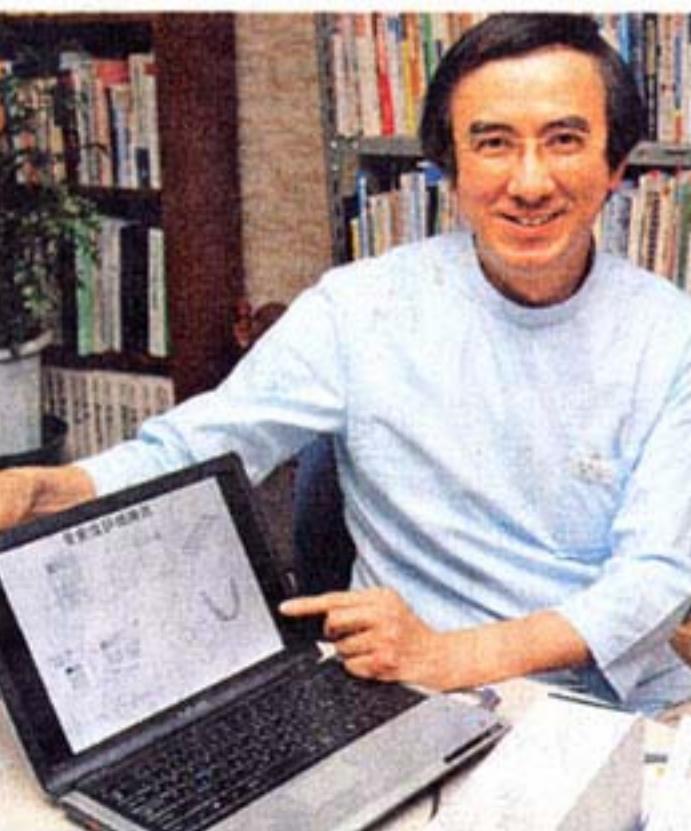
から歯の周辺にある歯槽骨の骨密度を数値化する。同分野で最も権威があるとされる米国の学術誌「オステオボロシスインター・ナル」に紹介された。

高石さんは、IFO理事

で今年四月に亡くなつた大阪市立大の森井浩世名誉教授と「骨粗鬆症と歯周病との相関性」などを十年にわたり共同研究。世界会議では、ほぼ確実に骨粗鬆症になるという閉経後の女性の臨床データを基に発表する予定だ。

骨密度の数値化は、手遅れになりがちな歯周病の治療にも役立つといい「ソフ

トの普及で、骨粗鬆症による骨折を少しでも減らせれば、爆発的に普及するかもしない」と評価している。(塩田武士)



バーコンを使ってソフトの説明をする高石さん=姫路市内